

ゲキ×シネ 「髑髏城の七人～アカドクロ」

2008(平成20)年6月28日鑑賞〈梅田ブルク7〉

★★★★★



監督＝梶研吾／著作＝劇団☆新感線、ヴィレッチ／映像製作＝イーオシバイ／作＝中島かずき／演出＝いのうえひでのり／出演＝古田新太／水野美紀／佐藤仁美／坂井真紀／橋本じゅん／河野まさと／インディ高橋／吉田メタル／保井健／中野順一郎／鹿野哲郎／右近健一／山本カナコ／前田悟／横山一敏／武田浩二／佐治康志／佐藤正宏／磯野慎吾／梶原善（イーオシバイ、ティ・ジョイ配給／2004年日本映画／160分）

……いのうえ歌舞伎として有名な『髑髏城の七人』を、今はじめてゲキ×シネで満喫！ 映像が最高！ 音響が最高！ そしてストーリーも最高！ しかして、アッと驚く結末とは……？ 充実した160分になること確かだ。こりゃ今後も、いのうえ歌舞伎とゲキ×シネに注目していかなければ！

いのうえ歌舞伎をゲキ×シネで！

中島かずき作、いのうえひでのり演出による劇団☆新感線の『髑髏城の七人』は、1990年、1997年、2004年と7年毎に再演をくり返してきたが、それが今「ゲキ×シネ」としてスクリーン上に登場。ゲキ×シネの面白さは5月15日に観た『メタルマクベス』（07年）で実証済み。そのすばらしさは、大阪日日新聞の「弁護士坂和章平のLAW DE SHOW」にも掲載した（6月14日付）。今回観たのは2004年春に上演された『髑髏城の七人～アカドクロ』。私は『髑髏城の七人』のストーリーや登場人物を全然知らなかったが、期待どおりの面白さ。

2人の美人女優に注目！

『アカドクロ』の主役は玉ころがしの捨之介と天魔王の2役を演ずる古田新太だが、私は2人の女優に注目！ 冒頭に登場する女性（少女）は沙霧（佐藤仁美）で、髑髏城の図面を持っているという彼女は、全編を通じた物語のキーウーマンになる。

私が注目したのは、極楽太夫を演ずる坂井真紀と無界屋蘭兵衛を演ずる水野美紀という2人の美人女優。極楽太夫は、前半は色街である無界の里の遊女たちのリーダー

として、後半は鉄砲隊で有名な雑賀党のリーダーとして、集団を引っ張る踊りと演技が特徴。他方、無界屋蘭兵衛は、色街である無界の里の女主人ながら、捨之介とは旧知の友という謎めいた存在。そんな蘭兵衛は後半、捨之介と共に天魔王が支配する髑髏城に沙霧を救出するため赴くものの、そこで突然森蘭丸に変身してしまうからお楽しみ。

2人とも事実上1人2役の妙技を見せてくれるが、それをゲキ×シネの数台のカメラが見事に描写！

謎の牢人狸穴二郎衛門の正体は？

冒頭、関東髑髏党に追われる沙霧を行きがかり上助けたのが捨之介の他、もう1人謎の牢人狸穴二郎衛門（佐藤正宏）。捨之介は助けてやった沙霧を無界の里の女主人蘭兵衛に匿ってくれるよう頼むのだが、二郎衛門がなぜ1人で関東に出没しているのか気になるところ。そしてこの二郎衛門は、後半アッと驚く「あの人物」だったことが明らかになるから、要注意！

「抜かずの兵庫」と関八州荒武者隊とは？

いのうえひでのりのストーリーが面白いのは、奇想天外な発想と大がかりかつ緻密な構成の中、庶民の姿や庶民の視点が明確に描かれているところ。その一部は、無界の里を守る蘭兵衛のセリフにも見られるが、その典型は関八州荒武者隊のリーダーである抜かずの兵庫（橋本じゅん）のキャラクターそのものに。彼らは自分たちを武士だと名乗っているが、後半登場する兄貴の磯平（磯野慎吾）を見れば、何のことはない、抜かずの兵庫はただの百姓！ そんな抜かずの兵庫をリーダーとする関八州荒武者隊は、あの戦乱の時代に何を目指し、どんな生きザマを追求していたのだろうか……？

キーワードは「影武者」……？

6月26日に観た『アイアンマン』が着る、ジェット噴射の能力を持ったパワードスーツは、当然銃弾をはねつけるもの。それに対して、時は天正18年、つまり織田信長が逆臣の手にかかり倒れてはや8年後の1590年。したがって、1600年に起きた関ヶ原の戦いの10年前だ。



© 2004 劇団☆新感線・ヴィレッヂ

そんな時代に天魔王が身につけていた南蛮渡来の黒甲冑は、刀では全然歯が立たないうえ、鉄砲の弾も受け付けられないというからかなりのすぐれもの。浪花の猿面冠者、豊臣秀吉が関東に大軍を送り込んでくる中、髑髏城に立てこもる関東髑髏党の命運も「もはやこれまで」と考えられたが、自らを天魔王を名乗る黒甲冑の男の考える構想はデカイ。スペインの無敵艦隊を破ったイギリス艦隊を味方につけて、秀吉の出陣で手薄になった大阪を叩くという戦略は何ともすごいもの。さて、1590年当時にそんなグローバルな思考方法を身につけていた天魔王とは一体何者……？

昔、武田信玄には影武者が何人もいたらしいから、織田信長にも影武者がいてもおかしくないはず、すると、本能寺の変で討ち取られたのはひょっとして影武者で、今天魔王を名乗っている男がホントの織田信長……？ それとも……？

どちらにしても、中島かずき原作の『髑髏城の七人～アカドクロ』は、影武者がキーワード……？



個性豊かな男が、あと2人

中島かずきが描く「髑髏城の七人」のキャラはそれぞれユニークだが、そんな個性豊かな奴があと2人。1人は、名前だけでその個性がよくわかる(?)裏切り三五

(河野まさと)。ヨーロッパ社会でユダが嫌われるのは、イエス・キリストをローマに銀貨30枚で売ったという「裏切り」のためだが、裏切りが最大の罪になるのは契約概念が発達したヨーロッパならではのこと……。それに対し、合従連衡をくり返し、戦争よりも和議を重視する日本(?)では、裏切りは日常茶飯事。したがって、この裏切り三五も結構愛嬌があり、裏切りも1つのキャラ……?

もう1人は、職人氣質が徹底した刀鍛冶の贗鉄斎(梶原善)。強力な磁石を使って鉄砲の弾を避けるというトリックは、れっきとした科学的根拠のあるもの(?)だが、これは当時としてはある種のマジック……。また、戦国動乱の時代にありながら、再三のポイントの場面で「ここで一句」と俳句で表現するとは、なかなかの才人……?

さて、こんな個性豊かな男たち7人は、何のために、いかなる形で罽毘城に集結することになるのだろうか……?

ゲキ×シネの迫力と、アッと驚く結末に大満足!

演劇と映画を一体とした新しいエンタメのスタイルがゲキ×シネ。舞台を観客席の一点からずっと観ているよりも、数台のカメラがこれぞ見せどころというところを撮り、編集した映像を巨大スクリーンで観ることができるうえ、すばらしい大音響で聞くことができるから、ゲキ×シネは最高。さらに、1人2役をふんだんに活用した(?)ストーリー展開は最高。しかして、最後に待つアッと驚く結末とは……?

天魔王に届けられた極秘報告によれば、イギリス艦隊は予定が変わり、大阪を叩くことができなくなっただけ。つまり、天魔王戦略の大前提がもろくも崩れてしまったわけだ。そんな中で下した天魔王の決断は、さすが天下の英雄! それは、自分のクビを今は豊臣秀吉の先鋒として罽毘城攻めにかかっている徳川家康に差し出せという、素早くかつ潔いものだった。大軍に包囲された罽毘城から捨之介を救出のうえやっと逃げ出した「七人衆」は、徳川家康の前で見事天魔王のクビを切り取ってこれを献上したから、これにて一件落着……。?

いやいや、中島かずき作、いのうえひでのり演出のゲキ×シネはそんな単純なものではないはず。捨之介救出作戦と罽毘城大包围作戦の2つが同時進行していくクライマックスの展開の末に迎える、アッと驚く結末とは……。それは是非、あなた自身の目で……。

2008(平成20)年6月30日記